

発刊に当たって

川崎市は、大正13（1924）年に人口約5万人の市として誕生しました。その後、市域の拡大とともに人口は増加し、昭和47（1972）年には政令指定都市に移行し、令和5（2023）年4月時点で、154万人を超える6番目に大きな都市へと成長してきました。

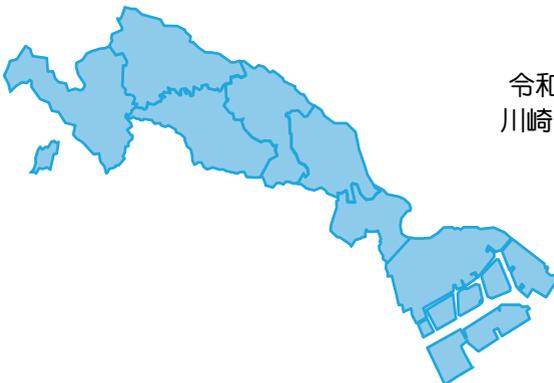
そして、令和6（2024）年7月1日に市制 100 周年を迎えます。市制100周年を契機として「あたらしい川崎」を生み出していく新たなスタートラインに立とうとしています。

近年は感染症の流行を契機として人々の暮らしや価値観は変化し、新しい生活様式への対応やデジタル化の加速など、本市を取り巻く状況は急激に変化し続けています。

これらの環境変化や課題に的確に対応し、持続可能な市政運営を行っていくためには、統計情報を用いて状況を把握し、施策を検討していくことがますます重要となっています。

この「統計データブック」は、「川崎市統計書（令和4年版）」及び「大都市比較統計年表（令和3年）」などから、市民生活に関わりが深い統計情報を引用して体系的に整理し、グラフや解説を加えて分かりやすく編集しています。

本冊子を通して、多くの皆様に本市の現況について理解を深めていただければ幸いです。



令和5（2023）年10月
川崎市長 福田 紀彦

令和5年版 川崎市統計データブック 目次

I 川崎市は令和6(2024)年に市制100周年を迎えます		1	36	ごみの処理状況	45
1	川崎市99年のあゆみ	2	37	刑法犯認知件数	46
2	川崎市の人口	4	38	火災発生件数	47
3	川崎市の環境	6	39	交通事故発生状況	48
4	川崎市の安全・安心	8	40	こども・学校 認可保育所の概況	49
			41	小学校・中学校の概況	50
II 市勢データ		9	42	福祉・健康 生活保護の概況	51
1	人 □ 人口の推移	10	43	介護保険の概況	52
2	区別人口	11	44	出生と死亡	53
3	人口の自然増減と社会増減	12	45	住 居 着工新設住宅	54
4	年齢別人口	13	46	住宅の概況	55
5	昼夜間人口	14	47	選 挙 選挙	56
6	労働力状態	15	48	財 政 市税収入額	57
7	外国人住民人口	16	49	市 民 意 識 市民要望・評価と定住状況	58
8	婚姻と離婚	17			
9	事業所(民営) 産業別事業所数及び従業者数	18	III 大都市データ		59
10	区別事業所数及び従業者数	19	1	人口・世帯数及び面積	60
11	区別の産業別事業所数	20	2	人口動態	60
12	区別の産業別従業者数	21	3	年齢別人口	61
13	従業者規模別の概況	22	4	有業者	61
14	資本金階級別の概況(会社企業)	23	5	事業所(民営)	62
15	農 業 農業概況	24	6	工業(従業者4人以上の事業所)	62
16	区別の農業概況	25	7	商業	63
17	工 業 工業概況	26	8	貿易	63
18	区別の工業概況	27	9	住宅	64
19	産業別の工業概況	28	10	消費者物価地域差指数	64
20	従業者規模別の工業概況	29	11	市(都)民経済計算	65
21	商 業 商業概況	30	12	治安及び災害	65
22	卸売業の概況	31		「ちょっと一服」川崎市の小売物価の推移	66
23	小売業の概況	32			
24	百貨店・スーパーの概況	33	IV 川崎市近隣市区データ		67
25	貿易・経済 入港船舶	34	1	川崎市近隣市区地図	68
26	海上出入貨物	35	2	データ一覧	69
27	卸売市場	36			
28	賃金・労働時間	37	V 基礎データ		71
29	有業者	38	1	川崎市	72
30	一般職業紹介状況	39	2	川崎区	73
31	経済活動別市内総生産(名目)	40	3	幸 区	73
32	都市生活基盤 水道	41	4	中原区	74
33	下水道	42	5	高津区	74
34	市バスの運輸状況	43	6	宮前区	75
35	主要駅の1日平均乗車人員	44	7	多摩区	75
			8	麻生区	76

利用上の注意

端数処理の関係上、各数値の総数と内訳の合計が一致しない場合があります。
統計表中の符号の用法は次のとおりです。

「0」、「0.0」……単位未満

「-」……皆無又は定義上該当数字がないもの

「▲」……マイナス又は比較減を表す

「×」……該当数字はあるが発表を差し控えたもの

「…」……数字が得られないもの